

# ゴールデンウィークの混雑を無くすには？

経済調査部 エコノミスト 星野 卓也 (ほしの たくや)

## ゴールデンウィーク消費は5月初旬が山場

5月の大型連休であるゴールデンウィーク。この時期には観光旅行やショッピングに出かける人が増え、国内の個人消費が活発になります。実際に統計をみてみると、毎年5月の初旬ごろを中心に消費支出が増加しており、GW消費の盛り上がりを確認することができます(資料1)。

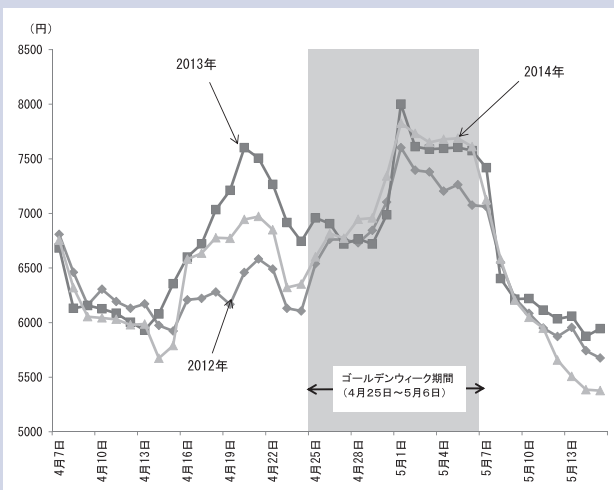
## 連休の混雑とワークライフバランス

GWや夏休み、年末年始には、人気のスポットは混雑に見舞われます。需要の増加に伴って、ホテルの宿泊代や交通機関の運賃が値上がりすることも常です。消費者側からすると嫌な値上げですが、企業側からすると、混雑時の値上げは利益を増やす手段であると同時に、客足を減らして混雑が深刻になることを回避する手段でもあります(資料2)。

そもそも、混雑するのはなぜか?という点に立ち返ってみると、それは多くの人が同じ日に仕事を休んでレジャーへ出かけるからです。各々がバラバラに休みを取って休日分散されれば、混雑は緩和すると考えられます。消費者側からすれば交通渋滞に巻き込まれたり、行列に並んだりすることが無くなりますし、企業側も繁閑の波が穏やかになることで、雇用などをはじめ、経営を安定化させることができます。

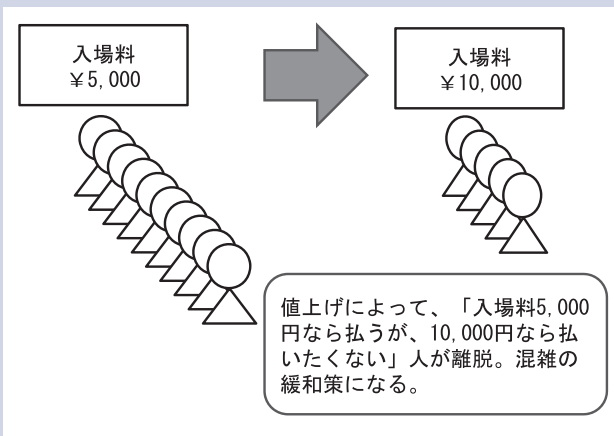
日本は先進国中で土日以外の休日日数が多い一方で、年間に取得できる有給休暇の数は少ない部類に入ります(資料3)。祝日の数の多さは、自ら休みを取ることに消極的な日本の労働市場の体質の裏返しともいえそうです。こうした中で、政府はワークライフバランスの確保に主眼を置いて、“休み方改革”を検討しています。自ら積極的に休暇を取得する社会を実現できれば、休日分散を通じてGWやお盆の混雑緩和という嬉しい副作用を生むかもしれません。

### 資料1 日別・消費支出(7日移動平均)



(出所)総務省「家計調査」より第一生命経済研究所が作成。

### 資料2 値上げが混雑緩和策に



(出所)第一生命経済研究所が作成。

### 資料3 年間休日日数の国際比較(2012年)

|      | 週休日以外の休日数 | 年次有給休暇数 |
|------|-----------|---------|
| 日本   | 15        | 18.3    |
| イギリス | 9         | 24.7    |
| ドイツ  | 10        | 30.0    |
| フランス | 9         | 30.0    |
| イタリア | 11        | 28.0    |

(出所)労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2014」